

2008.10.27

松本城管理事務所研究室

今回は松本城下町川南の町人地の変遷・親町枝町小路等についてお尋ねしますのでお答え下さい。

1. 享保10年に遍纂が完了した「信府統記」によれば「天正13年(1585)より今の宿城の地割をして、15年までに市辻・泥町あたりの町屋を残らず移し、東町・中町を割り……」とある。市辻・泥町あたりの町屋はどこに移住したのか、次の中から一つ選びなさい。

① 伊勢町 ② 本町 ③ 宮村町 ④ 飯田町



2. 「松本記」(川辺家文書)によれば、「……木沢之地二古へより伊勢太神官御座候也 則今之□□□へ勧請致候 是より世人伊勢町と唱候」とある。伊勢町と呼ぶ前は、この町を何と言っていたか、次の中から一つ選びなさい。

① 鍛冶町 ② 神明町 ③ 西口町 ④ 宮村町

3. 本町の枝町馬喰町(博労町)は、「太守累年紀」(川辺家文書)によると「……此代伊勢町飯田町小池町宮村町……二家並建並(家ならびたてならぶ)然共明地(あきち)数多有(あり)馬喰町出来ル……」とある。さて此代とは、次の中の誰にあたるか一つ選びなさい。



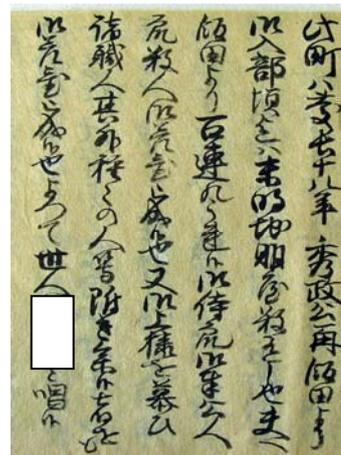
① 小笠原貞慶 ② 戸田康長
③ 松平直政 ④ 小笠原秀政

4. 親町である中町は、本町と東町の間にあることから名づけられたという。城下町の中心の位置を占めている一つである。天正13年(1585)～15年頃には町屋を移し、東町・中町の地割りがなされ、そして小笠原秀政時代に各町に家が建ち並んできたとされている。次の中で中町に付随する町でないものを一つ選びなさい。

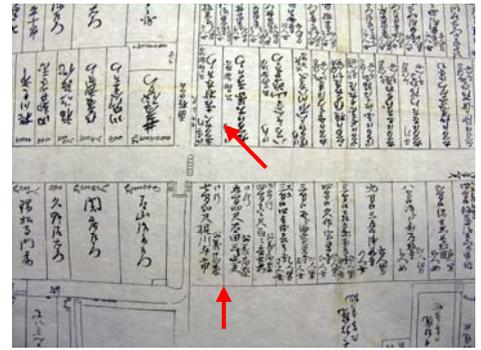
① 和泉町 ② 宮村町 ③ 飯田町 ④ 小池町

5. 「松本記」(川辺家文書)によると、「……秀政公飯田より御入部頃までは、まだ明地明屋数あり、これへ飯田より召し連れられてきた御侍衆奉公人衆を差置かれた。また御上様を慕ってきた諸職人やそのほか種々の人達をここに置かれた。よって世人□□□と唱えた」。□に入る町を次の中から一つ選びなさい。

① 伊勢町 ② 宮村町 ③ 安原町 ④ 飯田町



6. 右の絵図は元禄時代に作成された宮村町の一部である。石川康長の代に「・宮村辺二歩行屋敷出来ル」とある。歩行屋敷北側に間口4間～9間で御歩行として、武家屋敷と町人地が混在している（赤の矢印部分）様子がうかがえる。町人地の中の武家屋敷を何と呼んでいたのか、次の中から一つ選びなさい。



- ① 侍屋敷 ② 町屋敷 ③ 公義（儀）屋敷

7. 寛永14年（1637）松本に銭座が置かれ、寛永通宝が鑄造（ちゅうぞう）された。町役人今井勘右衛門が申請し許可された。さて、この銭座はどこの町に置かれたのか、次の中から一つ選びなさい。

- ① 博労町 ② 天神小路 ③ 鍛冶小路 ④ 鍋屋小路

8. 川南の町人地で飯田町の中に唯一寺が存在する（下絵図の赤矢印のところ）。この寺は松本城主水野家由緒の寺である。歴代の城主や住職によって守られてきた。しかし、明治5年からの廃仏毀釈によって廃寺となる。近年整備をして説明碑を建立してその歴史を留めている。この寺の名は何というのか、次の中から一つ選びなさい。

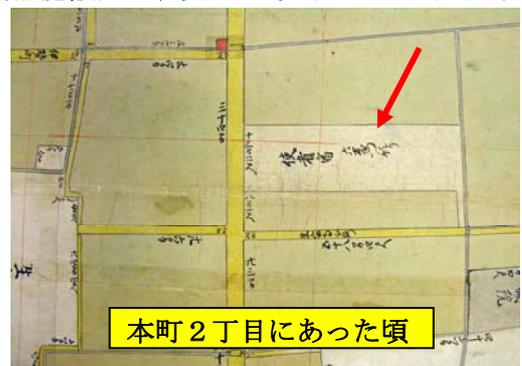


- ① 浄林寺 ② 乾端寺
③ 極楽寺 ④ 瑞松寺

9. 川辺家文書「太守累年紀」によれば、「・・・〇〇〇ヨリ追手先（大手先）女統多川（女鳥羽）ヨリ南江極楽寺を移ス」とある。水野忠職（ただもと）の代に春了寺を建てるために、明暦3年（1657）に現在地（本町5丁目）に移転した。極楽寺が最初にあった場所は、次のうちどれか一つ選びなさい。

- ① 栗林村 ② 鎌田村 ③ 小嶋村 ④ 野溝村

10. 本町2丁目に藩の御使者宿（おししややど：公的宿泊施設）が、寛文7年（1667）に常設された。その後天明3年に移転した。今井家が幕末まで7代にわたって勤めた。本町2丁目からどこに移ったか一つ選びなさい。



- ① 伊勢町 ② 飯田町
③ 本町3丁目 ④ 本町4丁目

氏名		採点	
----	--	----	--